

在日朝鮮人運動史研究会編

在日朝鮮人史研究

全四巻

創刊号～第20号

在日朝鮮人史研究

創刊号

1977年12月

発刊にあたって	(1)
戦後日本労働運動史記述における	
在日朝鮮人労働運動像	松永洋一 (3)
三信鉄道争議について	平林久枝 (9)
在日朝鮮人部落の積極的役割について	樋口雄一 (25)
「摺友会」覚え書き	李順愛 (33)
第二次大戦中の植民地鉱業労働者について	長沢秀 (42)
解放直後の在日朝鮮人運動	朴慶植 (52)
資料	
(一) 職業紹介所と朝鮮人労働者 東京地方職業紹介事務局	(71)
(二) 朝鮮人労働者内地移入に関する件 内務省・厚生省 朝鮮總督府	(87)
(三) 在日本朝鮮労働總同盟第三回大会 — 宣言・綱領・規約 —	(95)
研究会の記録・あとがき	(103)

在日朝鮮人運動史研究会

揃定価72,100円(本体70,000円)

緑蔭書房

一読者として

復刊をよろこぶ

杉原 達

大阪大学文学部助教授

一九七〇年代の半ばからドイツ近現代史研究を志した私にとつて、どのような問題意識とアプローチをもつて、他国の歴史に関わる内外の先行研究を整理し、史料を読み込んでいくのかということとは最大の難問であった。そうした折りに刊行が始まった『在日朝鮮人史研究』は、自分にとって抜き差しならない存在となった。研究論文、資料紹介、回想を問わず本誌を貫いているのは、研究主体の位置をきびしく問いながら、綿密な論理展開と史料との格闘を実践し、在日朝鮮人の生活史と運動史を明らかにしようとする姿勢であったからである。入手しえた何冊かをドイツへ持参し、分析に行き詰まった深夜に繰り返しひもといた日々を忘れることはできない。そしてその営みは現在まで続いている。

このたび『在日朝鮮人史研究』が復刊されるといふ。私は会員ではない一読者として、このテーマを意識しながらも直接に研究しているわけではない学生・院生や市民の方々に、一読をおすすめしたいと思う。自身の壁を突破しようとする時に、必ずや大きな励ましを見出されるであろう。

地域史と在日朝鮮人

樋口雄一 朝鮮史研究者

これまでの日本の近代史研究のなかでは在日朝鮮人の果たした役割が軽視され、あるいは朝鮮史のなかでも位置づ

『在日朝鮮人史研究』創刊号→第20号の目次

創刊号(一九七七年二月)

発刊にあたって

戦後日本労働運動史記述における在日朝鮮人労働運動像

三信鉄道争議について 平林久枝

在日朝鮮人部落の積極的役割 樋口雄一

「権友会」覚え書き 李 順愛

第二次大戦中の植民地鉱業労働者について 長沢 秀

解放直後の在日朝鮮人運動(1) 朴 慶植

資料

(一)「職業紹介所と朝鮮人労働者」東京地方職業紹介事務局(一九二四)

(二)「朝鮮人労働者内地移入に関する件」内務省・厚生省・朝鮮総督府(一九三九)

(三)「在日本朝鮮労働総同盟第三回大会宣言・綱領・規約」(一九二七)

第二一号(一九八三年三月)

山梨県における在日朝鮮人の形成と状況 金 浩

在日朝鮮人教育における路線の推移 梁 永厚

在日朝鮮人生活保護切り政策について 樋口雄一

在日朝鮮人居住地区の類型と立地特性 三輪嘉男

資料

(一)大阪控訴院判決「朝鮮人ノ日本共産党拡大強化ノ行為」(一九三三)「思想月報」二ノ二 所収

(二)大邱覆審法院判決要旨「済州島における東亜通航組合員の暴行事件」(一九三二) 同前

(三)愛知県「鮮人問題」(一九二五)

第二二号(一九八三年九月)

大阪における「内鮮融和期」の在日朝鮮人教育

一九二〇～三〇年代の演劇運動 伊藤悦子

戦時中の田奈部隊弾薬庫つくりの朝鮮人労働者 仁木愛子

在日朝鮮人の言語生活 三田登美子

資料

(一)中嶋大正鉱業「半島労働管理見学ノ記」(一九四二)

(二)佐渡鉱業所「半島労働管理ニ付テ」(一九四三)

(三)長野県「朝鮮人概況」(一九二六、一九三一、一九三三、一九三五)「県知事事務引継書」所収

第二三号(一九八四年四月)

あるハンセン氏病在日朝鮮女性の手記

あるハンセン氏病在日朝鮮女性の手記 蘇 福姫

神有電鉄工事の朝鮮人土争議について 若生みすず

大阪における解放前の在日朝鮮人の生活(1) 宋 連玉

資料

(1)社会科学研究所編「朝鮮全史」に記述された在日朝鮮人運動史

(2)山口県における在日朝鮮人の状況(「県知事事務引継書」抜粋)

第二号(一九七八年二月)

解放直後における在北海道朝鮮人運動

在日朝鮮女性運動(上) 桑原真人

「権友会を中心として」 李 順愛

日帝の朝鮮人炭鉱労働者支配について(1) 長沢 秀

柳原吉兵衛と在日朝鮮人 樋口雄一

解放直後の在日朝鮮人運動(3) 朴 慶植

資料

(一)福島県警察部「朝鮮人・中国人の動向調査」(一九四五)

(二)朝鮮人生活権保護委員会「ニュース」第十七号(一九四五)

第一四〇号(一九八四年一月)

けられないことが多い。この理由の一つは大学に在日朝鮮人に関する講座が設けられていないこともあるが、在日朝鮮人の歴史研究の蓄積が無かったことによるであろう。自治体が刊行している市町村史は「市史研究」などを含めると近現代史に関する資料だけでも膨大な数になる。

しかし、在日朝鮮人の歴史については二十年前は皆無に近く、書かれていても極めて偏った評価をしていた場合も多い。それらは書き改められなければならないが、それも進んでいないようである。最近でこそ近現代編のなかでその地域に住む朝鮮人や強制連行については部分的に触れているものの、ごく形式的な叙述にとどまっている。周知のように日本の地域には古代・中世、近世、近現代を通じてアジアとの交流の歴史が刻まれている。近代の在日朝鮮人の歴史も地域からの実証的な研究の積み重ねによって日本近代史の中で位置付けられるようになるだろう。

今回復刻される『在日朝鮮人史研究』は二十年近くの朝鮮・韓国人と日本人の共同研究の成果と言うべき資料や論文が含まれている。地域から在日朝鮮人の歴史を説明する際には必備の資料である。

執筆者の一人とついで

山田昭次 前立教大学教授

緑蔭書房が『在日朝鮮人史研究』の復刻版を第二十号まで刊行するという。執筆者の一人としても有難いことだ。第一号から第二十号までをふりかえってみると、これまで解明されてなかった、あるいは解明が困難な重要な史実を解明した論文や今後の研究の発展のための問題提起となった論文が多い。これらが多くの人々に読まれ、在日朝鮮人史の解明はもちろん、日本人が見落としがちな、もう一つの日本の姿の解明が進展することを望んでやまない。そう

第四号(一九七九年六月)

ある朝鮮人炭鉱労働者の回想
在日朝鮮女性運動(下)
— 種友会を中心として —
長沢 秀
李 順愛

在日朝鮮人戦災者 三九、三二〇人
日韓併合時の新聞報道と在日朝鮮人像
解放直後の在日朝鮮人運動(四)
樋口雄一
山中速人
朴 慶植

資料「在日同胞の実態調査」(『亜細亜研究』第五七号 所収) 洪承稜・韓培浩(編集部訳)

第五号(一九七九年二月)

平作川改修工事論
いまも忘れぬタコ部屋での労働と生活
日本の学校に子どもを通わせている在日朝鮮人父母の教育観に関する調査 洪 祥進・中島智子
平林久枝
樋口雄一

朝鮮労働同盟会について
日帝の朝鮮人炭鉱労働者支配について(2)
資料「東京朝鮮人諸団体歴訪記」(一九七〇二八)
野村明美
山田昭次
長沢 秀
朴 尚偉

朝鮮思想通信」連載
「朝鮮思想通信」連載
朴 尚偉

第六号(一九八〇年六月)

サンフランシスコ平和条約と在日朝鮮人
東京・深川における朝鮮人運動
韓末の渡日留学生について
飛田雄一
角木征一
竹腰礼子
樋口雄一

戦時下在日朝鮮人の「非同調」行為について
一九二〇〜三〇年代朝鮮農民渡日の背景
大阪における四・二四教育闘争の覚え書き(1)
梁 永厚
樗村秀樹

資料
「東京在住朝鮮人の生活と団体状況」(一九三三)
『朝鮮新聞』所収
(二)「京都における在日朝鮮人の状況」(一九二七〜四五)
「府知事引継文書」所収

第七号(一九八〇年二月)

第一四号(一九八四年二月)

神戸のゴム工業と朝鮮人労働者
朝鮮戦争期間中の神奈川県下の反戦活動について
堀内 稔
平林久枝
樋口雄一

自警団設立と在日朝鮮人
和歌山・在日朝鮮人の歴史
金 静美
資料
樺太庁警察部「樺太在留朝鮮人一班」(統(一九二七))

第一五号(一九八五年一〇月)

一九三〇年代在阪朝鮮人労働者のたかひ 谷合佳代子
一九三〇年代を中心とした在日朝鮮人教育運動の展開
伊藤悦子
佐藤泰治

新潟県中津川朝鮮人虐殺事件
解放後における在日朝鮮人の民族的統一運動の再検討
新潟県中津川朝鮮人虐殺事件
解放後における在日朝鮮人の民族的統一運動の再検討
朴 慶植
樋村秀樹

第一六号(一九八六年一〇月)

戦時下南樺太の被強制連行朝鮮人炭礦夫について
長沢 秀
堀内 稔

在日朝鮮人アナキズム労働運動(解放前)
全協土建山梨支部と朝鮮人労働者(1)
江陵―興南―大夕張―ある在日朝鮮人の記憶―
金 浩
三田登美子

在日朝鮮人のエスニック・アイデンティティ形成と
複合文化状況
山田昭次
山中速人
梁 永厚

第一七号(一九八七年九月)

新潟県における朝鮮人運動
朝鮮人強制労働の歴史的前提
在日朝鮮人の外国人登録「国籍欄」記載に関する
行政実務の変遷について
樋口雄一
山田昭次
金 英達

解放後、日本における朝鮮人学校の国語教科書
厚生省健康局指導課「在日朝鮮人に対する同化政策の『協和事業』」(一九四三)
藤井幸之助

した研究の発展が、いま日本が直面している現実的な問題、例えば戦後補償問題などの解決にも役立つにちがいない。

在日朝鮮女性運動(下)

— 権友会を中心として —

李 順 愛

三、権友会本部と東京支会の対立

朝鮮は、一九二八年一月から二月にかけて、第三次朝鮮共済連盟が結成された。五月九日には、朝鮮日報が第四次無期停刊に処せられた。そのような年、五月十六、二十日にかけて開催される予定であった権友会定期全国大会が、五月十一日付で延期となり、禁止された。禁止理由は、第一に議案が不協定であること、第二に大会に集まる人物が不協定であること、この日商案を適切として、権友会本部と東京支会の対立が表面化してゆく。

年商案は、権友会全国大会禁止暴挙に対して全朝鮮駐在道民衆に集すが、権友会支会がそれである。在日朝鮮青年同盟のほうは、次のように論議しているが、この論旨は明快且正当であり、氣迫する感がある。

ま再び驚くことなれば、奴らの発行はそれだけであるか？ いや、それは決してそうではない。朝鮮民族解放運動隊として全朝鮮駐在道民衆の日本利益のために果敢に闘う権友会の全国大会は去る十二日、突然に禁止されてしまった。その口実は、所謂権友会精神が不協定である、禁止するに時はいらない、権友会の所謂不協定精神を重んじたいに解散せよと、一大暴言の終口で威嚇し、(中略)何をしても所謂権友会精神が不協定であるとし、何をしても安寧秩序を妨害したと。

大阪における解放前の在日朝鮮人の生活(1)

宋 連 玉

一、はじめに

第二次世界大戦後、大阪の朝鮮人は飛躍的發展をとげ、第二次世界大戦の始まる前まで、大阪の工業生産額は全国第一位であり、重工業の雄たる建設機械においても、重化学工業においても日本の先進地帯であった。その大阪に、朝鮮人が多く逗留していた。朝鮮の解放を迎え、多勢帰国しても、依然、大阪は朝鮮人の最多居住地であることに変わりない。

一九二七年に東洋産業が転換し、工業の中心が東京、名古屋に移るまでは、大阪は工業の先進地帯ではあったが、「原材料輸入と低賃金加工・製造」の再輸出方式と、大企業・中小・零細企業間における「製造業の下請け制」に支那・陸奥も日本でも早く形成され、はげしく発展してきた。この強固な「まぐさ」(特色)である上、組織されているように、日本資本主義の矛盾も機動的に内包していた。大阪の工業は繊維工業を中心とし、化学・金属工業が

日立鉱山朝鮮人強制連行の記録 山田昭次
鶴林同志会のこと 平林久枝
大阪における四・二四教育闘争の覚え書き(2) 梁 永厚
在日民衆の結成と反米反戦闘争 朴 慶植
日本の学校に子どもを通わせている在日朝鮮人父母の教育観に関する調査 洪 祥進・中島智子

資料 (東亜通商航路第三回定期大会議案草案)(一九三三)

第八号(一九八一年六月)

京都における在日朝鮮人労働者の闘い 鈴木 博
ある在日朝鮮人活動家の回想 長沢 秀
大阪における朝鮮人学校再建運動 梁 永厚
地域史に描かれた在日朝鮮人 藤野 一
資料 資料紹介
樺太庁警察部『樺太在留朝鮮人一班』(一九二七)

第九号(一九八一年二月)

福島県西部地方朝鮮人強制連行の記録 山田昭次
全協・失業者同盟下の朝鮮人運動 角木征一
相愛会・朝鮮人同化団体の歩み M・リングホッフ
在日民衆の活動と運動方針問題 朴
資料 外務省特別資料課編
『日本占領及管理重要文書集
— 朝鮮人・台湾人・琉球人関係改札 —』

第一〇号(一九八二年七月)

海がはけた！
山口県長生炭坑遭難の記録 — 梶村秀樹
朝鮮人労働者の兵神ゴム争議について 若生みすず
一一・二七神戸朝鮮人生活権保護闘争 堀内 稔
敗戦前・山梨県白根町に徴用で連行された朝鮮人 平林久枝

資料

(一)『京都に於ける公判闘争事件予審集結決定』(一九三三)
(二)『民戦』時期のベク・スポン論文とそれへの反駁文(一九五二) 『北極星』七号所収

第一八号(一九八八年九月)

金大海について 樋口雄一
朴春琴論 松田利彦
在日本朝鮮労働総同盟に関する一考察 外村 大
解放後の茨城における在日朝鮮人教育 鮎沢 謙
尼崎市における分校問題の一断面 梁 泰昊
三重県木本における朝鮮人襲撃・虐殺について 金 静美
追悼 樺沢裕子さん (一九三二) 朴 慶植

第一九号(一九八九年一〇月)

新潟県と朝鮮人強制連行 長沢 秀
兵庫県における在日朝鮮人労働運動 堀内 稔
日本軽金属による富士川水電工事と朝鮮人労働者動員 金 浩
『開書き』 朴広海氏 労働運動について語る(1) 資料
新潟県朝鮮労働組合『第二回大会報告・議案 附規約』(一九二九) 高柳俊男 樋口雄一 朴 慶植
追悼 梶村秀樹さん

第二〇号(一九九〇年一〇月)

朝鮮人少女の日本への強制連行について 樋口雄一
在日朝鮮人教育を通して見た日本戦後公教育の一考察 佐野通夫
解放直後の京都における朝鮮人民族教育 (一九四五—一九四九) 中島智子
私の原体験 大阪・小林町朝鮮部落の思い出 崔 碩義
山梨県 梁川村の朝・日労働者衝突事件(一九一〇) 金 浩
関東大震災時の朝鮮人虐殺事件裁判と虐殺責任のゆくえ 山田昭次
在日朝鮮労働 大阪事件について 金森製作
大阪朝鮮無産者診療所の闘い 外村 大
『開書き』 朴広海氏 労働運動について語る(2) 研究会十五年 平林久枝 飛田雄一 樋口雄一 長沢秀 朴慶植

『在日朝鮮人史研究』既刊号 目次

発刊にあたって（創刊号より）

朝鮮人が日本に住むようになってから、すでに六十余年が過ぎました。その前半、在日朝鮮人は植民地の人間として苦難の道を行ってきましたが、人権を無視した民族的な差別と抑圧は、解放後の現在もまだ完全になくなっておりません。

これに対して多くの先輩活動家たちは、血みどろのたたかいを続けてきました。また、在日朝鮮人運動は、常に日本の民主主義をまもる運動のもつとも先頭に位置し、たたかってきました。この朝鮮人のたたかいは、朝鮮民族の解放に大きく貢献したばかりでなく、日本の民主主義と人権の擁護に多大の役割を果たしてきました。しかし、在日朝鮮人運動の具体的な証言は、これまでほとんど記録になっておりません。

そこで在日朝鮮人運動に参加した活動家（日本人も含めて）の体験をつぶさに聞きとり、それを記録に残すことは、いろいろな意味で重要であると思います。この朝鮮人と日本人のこれまでの活動家の体験の聞きとりは、科学的な在日朝鮮人運動史をつくる土台になると思います。いうまでもなくこの作業には、多くの困難がともないますが、今後の日本と朝鮮との正しいあり方を追求していくためにも重要な仕事です。

わたくしたちは以上のような目的をもって一九七六年六月から、八・一五以前以後（戦前戦後）を問わず、在日朝鮮人運動に関する資料の蒐集、とくに活動家の体験の聞きとりや、運動に関する理論的な掘りさげのための研究会を始めました。研究会の成果をこの『在日朝鮮人史研究』誌に発表していきたいと思えます。

わたくしたちの研究はまだ緒にいたばかりで、いろいろと不十分な点が多くあると思えますが、活動家の方々をはじめ、皆様の御協力と忌憚のない御批判のほどを願っています。

一九七七年十二月

在日朝鮮人運動史研究会

復刻刊行にあたって

『在日朝鮮人史研究』は一九七七年に創刊され関東・関西部会をもつ在日朝鮮人運動史研究会の会誌である。その内容は八・一五以前、以後の在日朝鮮人の生活状況、労働運動、民族運動、強制連行などに関する研究論文ならび貴重な資料を収録している。これらは朝鮮・日本の両研究者の二十年にわたる月例研究会の成果であり、これから在日朝鮮人史研究を志す方々に広く活用していただければ幸いである。

一九九六年八月

朴慶植（アジア問題研究所代表）

朝鮮・韓国人と日本人研究者の二〇年にわたる共同研究の成果！

在日朝鮮人史研究

全四巻「創刊号」↓「第20号」

在日朝鮮人運動史研究会編

〔全四巻の収録内容〕

- I 創刊号（一九七七年二月）～第五号（一九七九年二月）
- II 第六号（一九八〇年六月）～第十号（一九八二年七月）
- III 第十一号（一九八三年三月）～第十五号（一九八五年一〇月）
- IV 第十六号（一九八六年一〇月）～第二十号（一九九〇年一〇月）

A5判・上製クロス装・ケース入・総2,758頁

定価72,100円（本体70,000円）

※「在日朝鮮人史研究」第二号以降の問い合せについて

在日朝鮮人運動史研究会では研究誌を年一回（九月）刊行しています。
第二号（一九九一年九月）以降のバックナンバー及び研究会については左記の所にお問い合わせ下さい。

関東 アジア問題研究所

〒182東京都調布市柴崎一七七一
電話〇四二四一八一―九九八九

関西 神戸学生青年センター（館長飛田雄一まで）

〒659神戸市灘区山田町三一―一
電話〇七八一八五一―二七六〇

関連図書

在日朝鮮人に関する総合調査研究

朴在二著「一九七九年刊・新紀元社版」

〔内容〕第一章「在日朝鮮人の歴史」第二章「在日朝鮮人の生活」第三章「在日朝鮮人の将来」第四章「結語」
付録「在日朝鮮人に関する文献目録」

定価4,120円（本体4,000円）

緑蔭書房

〒173 東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444

表示価格は消費税込みです

特約店